



遠軽 | C道の駅  
管理運営方針のまとめ  
(平成29年6月)



## 目次

はじめに	1
第1章 施設の理念	
1. 道の駅について	2
2. 遠軽IC道の駅について	2
3. コンセプト	2
4. 整備の考え方	3
第2章 建築・空間の概要	
1. 敷地・建物データ	4
2. 建築配置	5
3. 空間配慮・特徴	6
(1) 2つのレベルの活用	
(2) 上下階の連続と一体化	
4. 環境に配慮した建築	7
5. アクション・サポート	7
(1) サポート機能	
(2) サイン計画	
(3) 家具・備品計画	
6. フロア計画	9
(1) 1階「道の駅」	
(2) 2階「ロッジ」	
7. 機能別施設構成	11
(1) 道の駅機能関連概要	
(2) ロッジ機能関連概要	
第3章 各機能の特徴と主な業務	
1. 道の駅機能	13
(1) 基本的な考え方	
(2) トイレについての考え方	
(3) 直売・物販・食の提供の考え方	
(4) 主な業務内容	
2. ロッジ機能	17
(1) 基本的な考え方	
(2) ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方	
(3) 主な業務内容	



3. 全体管理機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- (1) 基本的な考え方
- (2) 情報発信の考え方
- (3) 主な業務内容

第4章 管理運営の基本的な考え方

1. 管理運営の方法・主体について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

- (1) 町民の参画
- (2) 管理運営主体についての考え方
- (3) 指定管理者制度の採用
- (4) 管理運営主体について

2. 施設管理の基本的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

- (1) 開館時間・開館日
- (2) テナント等出店料金等
- (3) 駐車場

3. 管理運営組織体制の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

- (1) 管理運営体制等
- (2) 組織体系図
- (3) 駅長等候補者の任用
- (4) 指定管理者の選定
- (5) 必要人員・収支想定



## はじめに

遠軽町は、北海道の北東部、オホーツク総合振興局管内の中央に位置し、東西4.7km、南北4.6km、総面積1,332.45km<sup>2</sup>を有する緑豊かな町であり、JR石北本線をはじめ、国道242号・333号の2路線を中心に、道道安国線ほか12路線の道道が町内を網羅し、札幌、旭川、北見、網走、紋別の各都市と結ばれ、古くから交通の要衝として発展してきた経過がある。

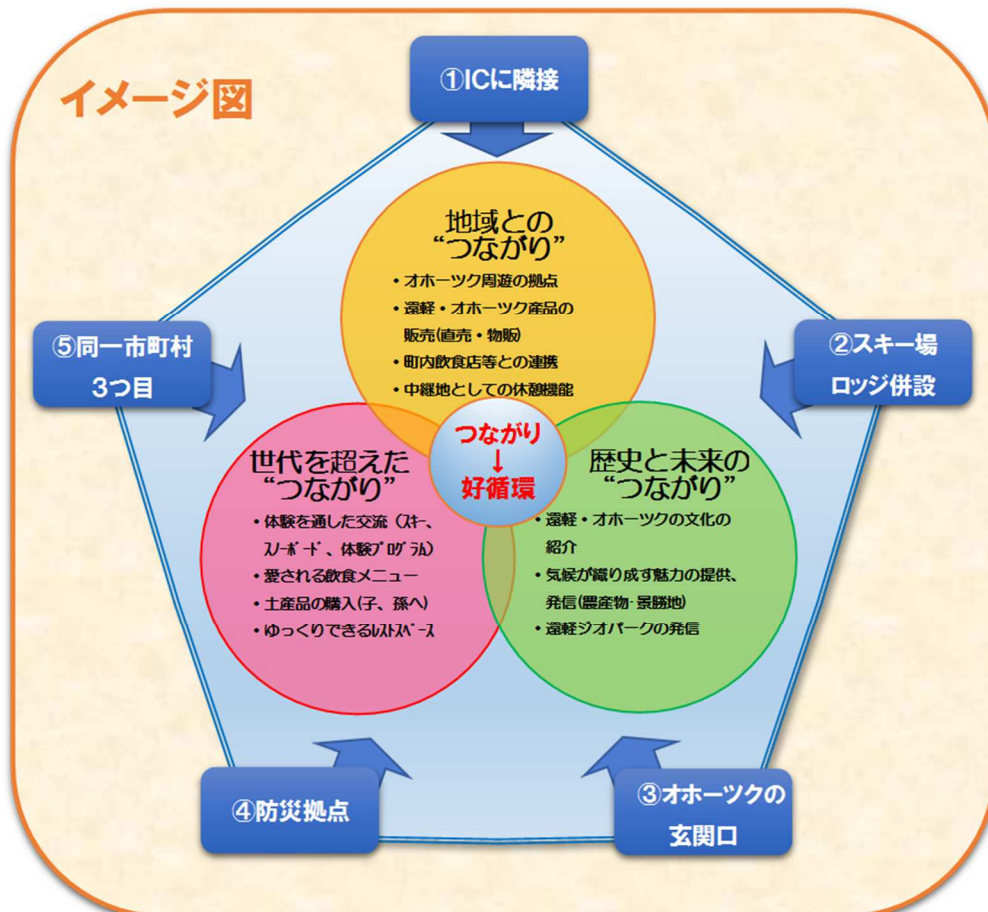
遠軽IC道の駅は、高規格道路の旭川・紋別自動車道の<sup>①</sup>ICに隣接する道の駅であり、えんがるロックバレースキー場のロッジの更新に合わせた、北海道で唯一の<sup>②</sup>スキー場ロッジを併設した道の駅であることから、利便性、話題性から多くの集客が期待されている。

また、交通の要衝として発展してきた遠軽町において、札幌・旭川方面から見ると<sup>③</sup>オホーツクの玄関口としての道の駅となるとともに、災害時も安心して滞在できる<sup>④</sup>防災拠点としての道の駅の機能を併せ持つことは、新たな発展への足掛かりになると考える。

そして、「まるせっぷ」、「しらたき」に続く、北海道で唯一の<sup>⑤</sup>同一市町村内で3つ目の道の駅となり、連携によってそれぞれの魅力がより輝くような、地域の意向を反映した活力のある施設を目指している。

このような特徴を持つこの道の駅から、「遠軽・オホーツク」の魅力を発信し、オホーツク周遊の拠点として地域との“つながり”、風土の歴史とこれからの未来との“つながり”、子どもからお年寄りまで世代を超えた“つながり”といった、さまざまな“つながり”を生み出すことで、遠軽町の活性化が図られ、長期的なスパンで好循環がもたらされることを目的としている。

そこで、本施設の設置目的を達成するための各種取組について、この管理運営方針のまとめ(平成29年6月)を策定する。





## 第1章 施設の理念

### 1. 道の駅について

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトにしている。

また、「道の駅」は3つの機能を備えており、24時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの「情報提供機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの「地域連携機能」があり、駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信や様々なイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスも提供している。

### 2. 遠軽IC道の駅について

現在工事が進められている旭川・紋別自動車道の丸瀬布遠軽道路は、丸瀬布ICから豊里までの区間で、平成29年3月19日には丸瀬布ICから遠軽瀬戸瀬ICまで11.2kmが開通したところであり、次のICとなる遠軽ICの開通予定は国土交通省からは発表されていないが、平成30年代の早い時期の開通が目指されている。

また、当道の駅は、「まるせっぷ」、「しらたき」に続く町内で3つ目の道の駅となり、高規格道路のICに隣接し、スキー場のロッジ機能を兼ね備えた新たなスタイルで、年間を通して利用できること、利便性、話題性から多くの集客が期待され、札幌・旭川方面からの「オホーツクの玄関口」として、「遠軽町」の“顔”となる場所になり、町内3つの道の駅が連携し、それぞれの魅力がより輝くような、地域の意向を反映した活力のある施設となるよう整備することとしている。

なお、施設の完成は平成31年度を予定しており、平成31年12月のスキー場オープンに合わせてロッジを供用開始し、道の駅は部分的に供用開始するプレオープンの扱いとする計画で、グランドオープンについてはICの開通に合わせる方向とする。ただし、各関係機関との協議の中で変動することがあるものとする。

### 3. コンセプト

#### 『グレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅』

遠軽ICに隣接したスキー場周辺の整備を進めるにあたり、遠軽IC道の駅検討協議会（※以下、検討協議会という。）において設定したコンセプトであり、オホーツク圏への玄関口となる立地特性を活かして、地域の個性を演出する道の駅づくりを進めることを表している。

また、このコンセプトのもと、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ機能に重きを置きながら、スキー場とロッジ機能、充実したトイレ機能、オホーツクの産品を網羅した物販・直売機能、地域の特色を出した飲食機能を柱として、整備を進めていくとしている。



#### 4. 整備の考え方

コンセプトを実現するための整備の考え方を、検討協議会やワークショップで話された結果から3つの視点で整理している。

また、当道の駅の特徴から、幅広い層の利用者を想定した中で、「経由地」としての休憩・飲食・物販サービスの提供、「目的地」としての冬場のゲレンデ利用や夏場の体験プログラムの提供、その両面からの利用を念頭に置き、小さな子どもとその親、そして孫を可愛がるお年寄りを含めた「ファミリー層」の利用を優先的に考え、整備を進めていく。



##### (1) 利用者に様々な体験を通して「遠軽・オホーツク」を感じてもらう

スキー場併設ならではの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。

- ①スキー場を活用した体験プログラムの提供
- ②ゲレンデを利用した風景づくり
- ③利用しやすい休憩スペースの提供

##### (2) 住民が主体になり「遠軽・オホーツク」らしい道の駅をつくっていく

食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。

- ①食の提供
- ②野菜、物産品の販売
- ③遠軽・オホーツクならではの歴史や文化の発信

##### (3) 玄関口としての位置づけを明確にし、利用者に「遠軽・オホーツク」を知ってもらう

旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

- ①周辺地域の情報提供
- ②防災拠点として時間を過ごせる設備
- ③快適に利用できるトイレ・駐車場等





## 第2章 建築・空間の概要

### 1. 敷地・建物データ

- 所在地 : 紋別郡遠軽町野上150番地1 えんがるロックバレースキー場
- 敷地面積 : 約21,000㎡
- 建築面積 : 1,035.01㎡
- 延床面積 : 1,605.28㎡
- 階数 : 2階
- 建物高さ : 10.92m
- 規模構造 : 地上2階建RC造



えんがるロックバレースキー場全景



現ロッジ（グレンデ側から）

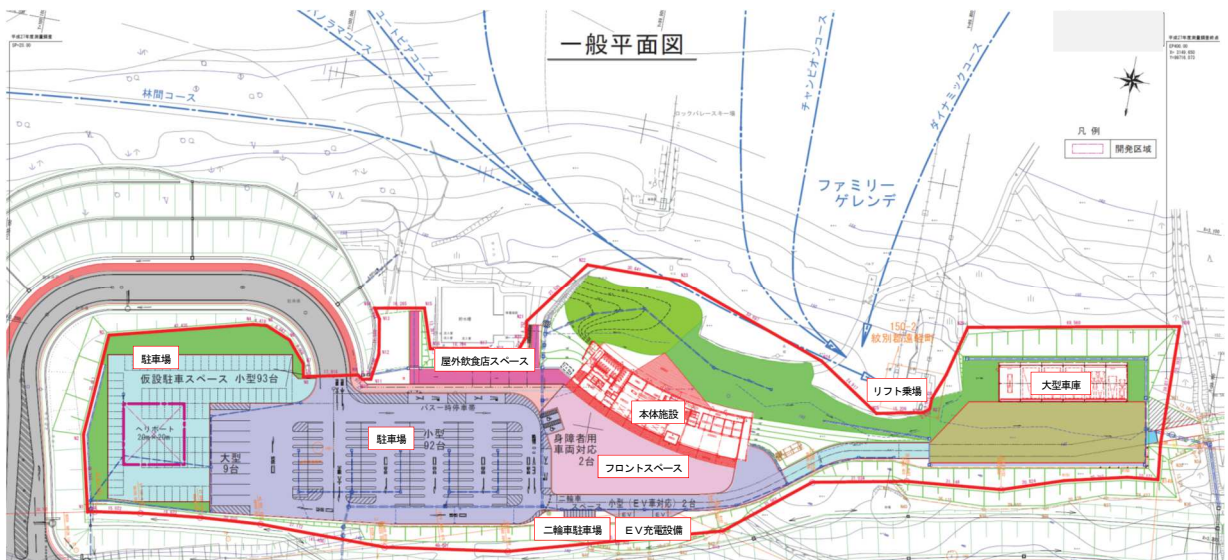


イメージ（駐車場側から）



イメージ（グレンデ側から）

## 2. 建築配置





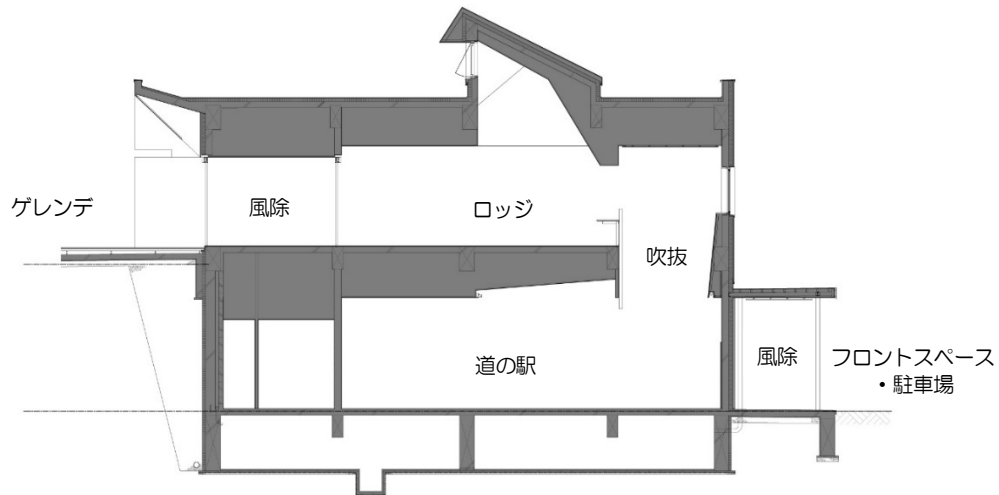


### 3. 空間配慮・特徴

#### (1) 2つのレベルの活用

計画地には、高速道路への接続道路との関係から設定される道の駅駐車場の地盤高さと、既存スキーリフト乗り場の高さには、4.5mの高低差がある（リフト乗り場が高い）。

本施設計画においては、「道の駅として必要な駐車スペースを確保する」とともに、「現状確保されていない、スキー場グレンデ下リフト乗り場レベルの平場を確保する」ことが前提であり、この2つのレベルに対応した施設計画とし、1階「道の駅」、2階「ロッジ」の機能構成とする。



#### (2) 上下階の連続と一体化

2つの機能は一体的利用が想定され、室内の「メイン階段」と「吹抜」を効果的に配置構成することで、上下フロアの円滑な移動と連続した空間をつくり、施設としての一体感を醸成する。

フロアごとに別々の活動が行われていてもよく、同時に相互の活動を感じることができるとして、利用者の思わぬ発見や、活動が活動を誘発するような「場」となることを目指している。

また、現ロッジのイメージを受け継ぎ、グレンデを見渡せる窓に加えて、随所に木の温かな雰囲気を感じられる設計となっている。





#### 4. 環境に配慮した建築

少しでも環境負荷を小さくするとともに、維持管理の負担を小さくする建築を計画する。主な建築・設備計画は次のとおりである。

- ・トイレ等の衛生機器に節水型を採用する。
- ・省エネ機器の採用
- ・利用別空調によるきめ細やかな対応で消費エネルギーを削減
- ・半地下を利用することによる、大幅な空調負荷を低減
- ・Low-E 複層ガラスによる窓の負荷軽減
- ・LED 照明を導入
- ・窓際の一部に昼光センサーを導入（検討）
- ・再生木デッキ材などのリサイクル材を使用

#### 5. アクション・サポート

##### (1) サポート機能

各階機能の充足やサービス提供に必要な、施設運営やテナント等活動をスムーズに行えるためのサポートとして様々な機能を付加している。

##### ① 1階

- ・直売・物販等のための「物品庫」を設置し、フードコート販売ブース裏には搬出入動線を確保するとともに、「ゴミ置場」や従業員を対象とした「トイレ」及び「休憩室」を設ける。

##### ② 2階

- ・観光バスの利用促進を図るため、乗務員を対象とした「休憩室」を設ける。
- ・スキー場の深夜管理のための「仮眠室」を設ける。
- ・地域防災拠点施設としての利用を想定した、「収納・備蓄庫」を設け、防災用備品を備蓄する。





## (2) サイン計画

施設利用者に心理的な安心を与えることができるよう、サイン自体を認識しやすいものとし、誰にとっても理解でき、わかりやすい内容とする。

- サインは、利用者に誘導や説明、規制などのメッセージを合理的に伝えるだけでなく、施設のコネクト等を的確に伝えるコミュニケーション手段とする。(オリジナルのサインデザインを検討)
- 文字やピクト(イラストのみで表現されているサイン)による表現を統一することで認識しやすくし、施設としての統一感を生み出す。
- 秩序のないサインは、利用者に混乱を招くだけでなく、施設印象の低下に働くこともあるため、ルールを設けた展開とする。
- 外国人観光客の利用も想定し、多国語表記を検討する。

これらのサインとともに施設リーフレットやスタッフによる人的サポートで、利用者が的確に目的とする場所に移動できる施設を目指す。

### ◇サインの種類

- 全体案内サイン
- 道の駅(1階)案内サイン
- ロッジ(2階)案内サイン
- 誘導表示サイン
- 階数表示サイン
- ルームサイン
- リーフレット

## (3) 家具・備品計画

安全かつ安心して施設利用できるように利用者の行動や活動をサポートし、利用者にとって快適な場を提供する計画とする。

- 各機能に適合した家具や備品を設置することで、施設内の利用者の行為や活動、施設活用をスムーズにする。
- エントランスホールから直売・物販コーナー、連続するフードコートは、施設イメージをつくる空間でもあることから、インテリアデザインと調和した利用者の印象に残るようなイス・テーブルデザインを行う。
- ロッジホールは、夏期のイベントや団体利用等が想定されることから、多様な用途に対応できる計画とする。



## 6. フロア計画

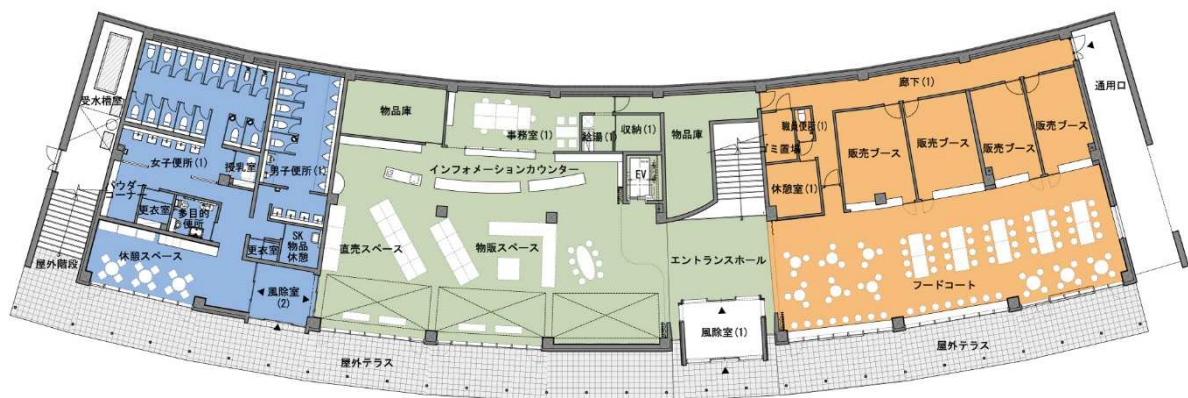
ゲレンデ	2階	ロジックフロア トイレ/ロッカー/レストスペース/ホール /軽食コーナー/レンタル/ショップ/事務室/会議室	フロントスペース /駐車場
	1階	道の駅フロア 24時間トイレ/道路情報/直売/物販/事務室 /観光情報/エントランス/フードコート	

## 断面図概要

## (1) 1階「道の駅」

道の駅駐車場・フロントスペースに面し、メインエントランスと24時間対応トイレの2か所  
に出入口がある「道の駅フロア」。

- ・フロントスペースに面する全面に、庇を設け連続した屋外テラスとする。また、ガラス張りのフロント構成とし、施設内のレイアウトや活動をディスプレイする。
- ・エントランスホールは、メイン入口正面に2階への階段とエレベーターを配置し、2階への誘導をスムーズにするとともに、「直売」「物販」「フードコート」が連続した空間として構成される。
- ・事務室前に配置されるインフォメーションカウンターを中心に、遠軽・オホーツクを中心とする地域情報を提供し、お客様の目線に立った情報発信に努める。
- ・トイレは、24時間対応を基本に、独立した利用を可能とする。自販機や道路情報を提供する「休憩スペース」、オストメイト対応の多目的トイレ、パウダーコーナー・授乳室・更衣室等の各種機能を充実させたトイレとする。



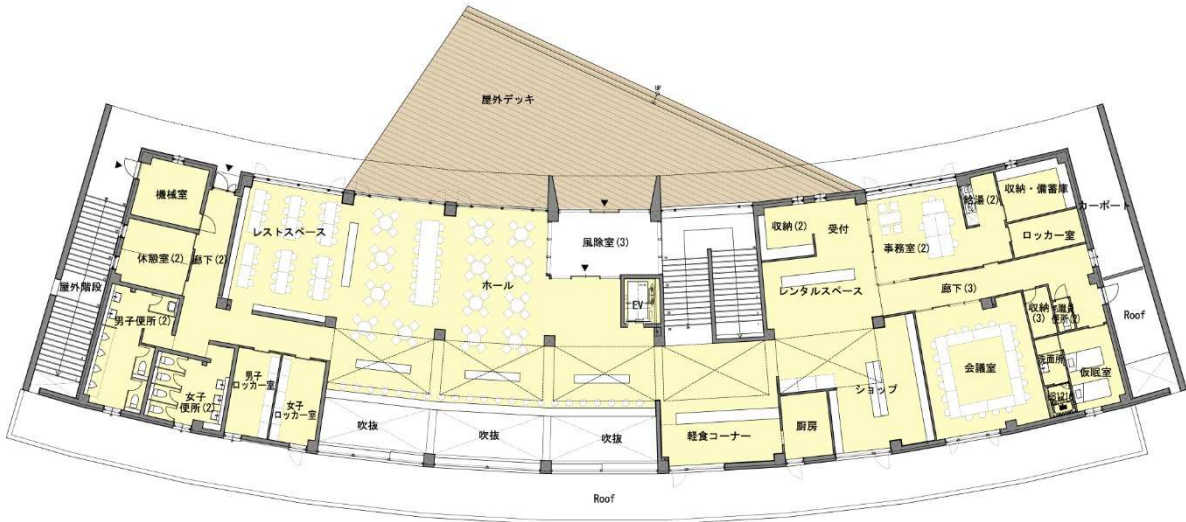
1階プラン



### (2) 2階「ロッジ」

スキー場ゲレンデに面し、メインエントランスとサブの2か所の出入口がある「ロッジフロア」。

- ・階段、メイン出入口を中央に、リフト側に「事務室」、「受付」、「レンタルスペース」、「ショップ」等のスキー場管理ゾーン、階段を挟んで逆側には「ホール」、「レストスペース」、「ロッカー」、「トイレ」等の利用者ゾーンを構成する。
- ・「軽食コーナー」はスキー場利用者を主な対象とし、軽飲食を提供する。
- ・「ホール」では、夏期のイベントや団体利用等が可能。



2階プラン

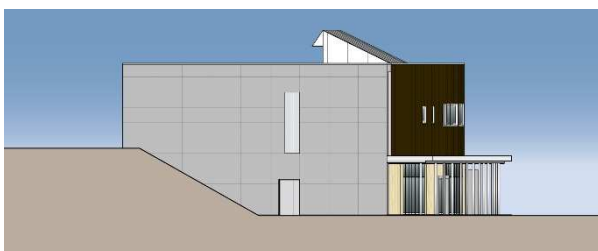
### (3) 施設外観



フロントスペース側から



ゲレンデ側から



東側面から



西側面から



## 7. 機能別施設構成

本施設は、道の駅機能とロジ機能を一体的に融合させることにより、観光客や高規格道路利用者、スキー場利用者に魅力的なサービスを提供するとともに、多様な市民の参加と交流の機会を提供する。

## (1) 道の駅機能関連概要

機能	階	施設構成	概要
道の駅			施設の特徴づくりに向け地域と連携を図り、『ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅』を目指す。
	1階	24時間トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>不足感を生じることのないトイレ数（女子：15、男子：大5、小10）の24時間対応トイレ。</li> <li>授乳室やパウダーコーナー、更衣室、オムツ替えシートやオストメイト対応設備を備えた多目的トイレなど、充実した装備と清潔な清掃管理を行う。</li> <li>休憩スペースには自販機を備え、道路情報を提供する。</li> </ul>
		エントランスホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>2階への階段、エレベーターを中央に、直売、物販、フードコートと連続する一体的な、道の駅の中心となる空間。</li> <li>窓際上部の吹き抜けを介して2階との連続性があり、2階でのイベント等の活動の様子も感じることができる。</li> </ul>
		直売スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場あるいはオホーツク圏の農産物を直売する。</li> <li>出品者単位の販売ブースを設ける。</li> </ul>
		物販ショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場あるいはオホーツク圏の素材を活用した産品を中心に、展示・販売する。</li> <li>特色ある企業や団体、その他オホーツクを意識した販売ブース（コーナー）を設ける。</li> </ul>
		案内・レジカウンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>直売、物販のレジ機能を行う。</li> <li>対面型の情報提供、観光案内機能を担う。</li> </ul>
		フードコート	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由な利用を前提とする飲食と休憩のスペース。</li> <li>夏期には屋外テラスも一体的に利用する。</li> <li>地場あるいはオホーツク圏の素材を多く活用した飲食の提供。</li> <li>販売ブースは4区画とする。（業種によりこの限りでない）</li> <li>電気、ガス、上下水道の取出しを設ける。</li> </ul>
		道の駅事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>1階道の駅の管理運営のための事務スペース。</li> </ul>
休憩室（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードコート販売ブース職員及び清掃職員用の休憩スペース。</li> </ul>		



## (2) ロッジ機能関連概要

機能	階	施設構成	概要
ロ ジ シ			冬のゲレンデスポーツの振興と、ゲレンデを利用した夏の風景づくり・屋外フィールドイベントを実施することで、道の駅の魅力向上に貢献する。
	2階	ホール	南側のゲレンデ、北側窓からの町の眺望が魅力的な、2階ロッジの中心となるスペース。 (冬)・スキー場利用者の休憩、待機スペース。 (夏)・ゲレンデ風景やまちの眺望を魅力とする、自由な休憩スペース。 ・イベント会場としての利用を想定するスペース。 ・団体利用者の食事・休憩等の利用を想定するスペース。
		レストスペース	(冬)・通常はホールと同一に利用。主に学校利用を想定するスペース。 (夏)・ホールとの一体的な利用。 ・体験プログラム等の利用。
		軽食コーナー・厨房	・基本的な厨房設備を設ける。(ガスなし) (冬)・スキー場利用者への軽食提供。 (夏)・イベントや団体利用時における飲み物や汁物提供等での一時利用。
		ショップ	(冬)・スキー客を想定するスキーグッズや菓子類等の販売。 (夏)・体験プログラムと連動し、イベント等を含めて臨機応変に対応する。
		レンタルスペース・受付	(冬)・スキー場利用者への用具レンタル。 (夏)・体験プログラム利用者への用具レンタル。 (受付)・レンタル受付、リフト券販売、利用相談対応。
		ロッジ事務室	・2階ロッジの管理運営事務と、スキー場の管理運営のための事務スペース。
		会議室	・スキー大会等イベントにおける大会事務所、会議等スペース。 ・常時における施設全体会議等利用のスペース。 ・災害時における避難者の休憩場所としての利用。
		仮眠室	・スキー場の夜間管理者のための仮眠スペース。洗面、浴室を備える。
		休憩室(2)	・観光バス乗務員のための休憩スペース。屋外階段を利用したアプローチを想定する。



## 第3章 各機能の特徴と主な業務

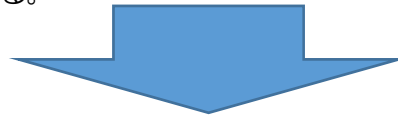
### 1. 道の駅機能

#### (1) 基本的な考え方

道の駅の位置づけは、充実した道の駅機能（休憩、トイレ、情報等）の提供や、オホーツクの玄関口（ゲートウェイ）としての広域の地域情報提供、町内の多様な団体・企業・個人等と連携のとれた遠軽町の地域紹介の展開を目指す。

機能の特色としては、地域で一番の評価を目指したトイレ機能の充実や、農産物をはじめとする地域特産品の品揃えと製品情報の提供、遠軽・オホーツクの地域情報を入手することができるサービス等を提供する。

また、フードコート形式による、地場あるいはオホーツク圏の素材を多く活用した特色ある飲食を提供し、「遠軽・オホーツクならではの」「ここにしかない」「今しかない」新鮮さや特色を活かしたサービスの充実と開発を図る。



#### ①休憩・トイレ・情報サービスの提供

休憩、トイレ、道路情報等サービスの基本的な事項への対応は、充実したものとする。

- ・フードコート等、周囲の風景や眺望を活かした特色ある休憩スペース。
- ・授乳室やパウダーコーナー、更衣室等の充実した24時間トイレ。
- ・道路情報の24時間提供及び遠軽・オホーツク地域情報提供の充実。

#### ②地域資源や活用のための工夫

地域で頑張る生産者や企業等の特色を活かした農産品や特産品を最大活用する、直売・物販・飲食の展開とする。

#### ③その他サービスの提供

- ・無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の提供。
- ・クレジットカード利用の対応。
- ・免税店制度導入の検討。

#### (2) トイレについての考え方

道の駅への立寄りを促進するため、快適で充実したトイレ整備を行う。そのニーズに積極的に応える台数を確保するとともに、授乳室やパウダーコーナー、更衣室等の装備を備えた24時間トイレとする。

◇女子トイレ：15（うち和式2）、手洗い5、パウダーコーナー、授乳室、更衣室

◇男子トイレ：大5、小10（うち手すり付1、小児用1）、手洗い4、更衣室

◇多目的トイレ：1か所、オストメイト対応、オムツ替えシート

◇休憩スペース：道路情報、自動販売機





### (3) 直売・物販・食の提供の考え方

地域の特色を活かした農産物の直売、加工品や工芸品の開発や導入・販売、オホーツクの海産物及び加工品等の販売や宅配提供、地場あるいはオホーツク圏の素材を多く活用した飲食提供等を実現するための、直売・物販・飲食の連携システムや、道の駅における販売スタイル等を目指す。

#### ①地域との連携、直売・物販・飲食の連携

##### ■地域連携

～地域の特色ある生産者、加工製造業者等の掘り起こしと知恵の集結で、遠軽・オホーツクならではの魅力を発信する。

##### 【例】

野菜、米、麦、牛、豚、鶏、海産物、蜂、木、花 ほか

野菜加工品、パン、乳製品、食肉、水産加工品、ハチミツ、木材 ほか

料理（ご飯類、麺類、パン類、野菜料理、肉料理、スープ、スイーツ、漬け物 ほか）

工芸（木工、雑貨、家具、フラワーアレンジメント ほか）

##### ■直売・物販・飲食の連携

～買うこと、体験すること、楽しみにすること等、道の駅で経験するすべてを通して魅力にする。

ア) 生産者の顔を感じる・知ることができる直売や加工品販売、飲食の提供。

- ・生産者と購入者との接点をつくる。
- ・生産者の顔が見える直売や物販を工夫する。
- ・生産者や加工生産者の紹介、情報の提供。

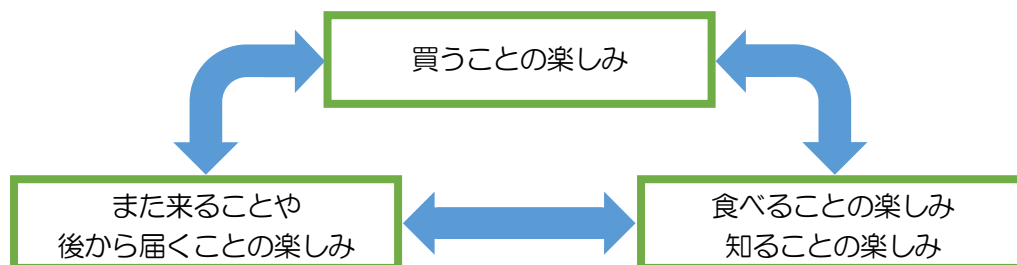
イ) そこで食べることができる体験

- ・野菜本来のうま味を味わうことができる食の提供。
- ・食べ方の提案。レシピの紹介。

ウ) 話題づくりの検討

- ・野菜づくり、花づくり、木工体験、料理体験等の体験イベントの開催。

##### ■魅力づくりの連鎖





## ②農産物直売の魅力づくり

### ア) 農産物を計画的に出品できる組織づくり

- 地場あるいはオホーツクにこだわった品揃え。
- 出品管理、情報提供システムの整備。

【POS レジシステム】→出品者の収入増に直結する納入システム

(例：畑で自分の売り上げ情報を確認できる⇒無くなれば納入する⇒その分現金化できる)

- 販売手数料の検討。

### イ) 購入を魅力的にする直売所づくり

- 購入者満足度向上のための販売方法・ディスプレイの検討。
- 生産者の顔が見える販売方法。  
(例：「生産者ブース方式」「朝市・軽トラ販売」多くの直売所で実施)
- 試食できる新鮮さの提供。(例：「調理キッチン」で洗い、カット)
- 購入者が満足できる価格設定。
- 宅配対応の充実。



●生産者の顔が見えるブース

## ③物販ショップの魅力づくり

### ア) 商工品販売の仕組みづくり

- 地場あるいはオホーツク圏の開発商品にこだわった品揃え。
- 販売手数料の検討。

### イ) 購入を魅力的にするショップづくり

- アンテナショップ、地域産品の情報拠点。
- 特色ある商品構成。(例：ここにしかないもの、今しかないもの ほか)
- 販売方法の工夫。(例：試食、実演、体験、作り方の紹介 ほか)
- インバウンド顧客に対応した多言語ポップ。

### ウ) 商品更新サイクルの仕組みづくり

- 繁忙期を見据えた在庫管理。(例：GW、お盆、年末年始 ほか)
- 季節ごとのイベントに対応した販売促進PR。  
(例：こどもの日、母の日、父の日、敬老の日、ハロウィン、クリスマス ほか)



## ④飲食提供の魅力づくり

## ア) 地場あるいはオホーツク圏の素材を多く活用した特色ある「食」の提供

- ・季節を感じさせる魅力の発信。
- ・旬の素材を活かした限定メニューの展開。
- ・遠軽・オホーツクならではの食文化の継承。

## イ) フードコートの手軽さ、多様さを活かした出店構成

- ・4区画の販売ブース（業種によりこの限りでない）
- ・提供品目のバランスを考慮した出店者の選定（メニューの重複防止）

## ウ) 屋外飲食店の検討

- ・フードコート出店者の提供品目と重複しないことを前提に、屋内での提供が難しい品目（焼き物等）の提供を中心とした、常設の屋外飲食店の設置を検討する。

## (4) 主な業務内容

業務名	内容
フロア管理（1階）	直売所、物販ショップ、フードコートの管理等
道の駅運営	広告・ニュースレター等の発行／各種イベントの開催／道の駅フロアを統括する会議の開催
町民活動団体支援	町民活動団体の支援／関連企業・団体・個人等の支援
その他	施設内の維持管理 / 各種イベントの企画運営



## 2. ロッジ機能

### (1) 基本的な考え方

本施設全体の特徴や機能としての新しい枠組みを構築する上で、既成のスキー場事業を継続して運営することに止まらず、本施設が有する道の駅機能と合理的かつ効果的に組み合わせることにより、新たな事業展開が可能となる。特に、夏期におけるグレンデを利用した活動展開は、集客や滞在時間を拡大し、施設活用の幅を広げるとともに道の駅としての特色づくりや認知度向上に寄与する。



#### ①利用者のためのサービス提供

えんがるロックバレースキー場の既存サービスの充実とともに、夏期のサービス等の充実を図る。

#### ②夏期の2階活用の工夫

今後、本施設の夏期利用の可能性の検討を行う。

- ・屋外デッキテラス利用と景観の整備
- ・風景、眺望を活かした休憩スペース、体験スペースの提供事業
- ・道の駅機能を補完する観光団体バス利用者等への食事提供事業 ほか

#### ③夏期のグレンデ活用のための工夫

今後、本施設やグレンデを活用し展開することができる可能性のあるものとして、夏期の事業展開等の検討を行う。

- ・夏期の屋外体験プログラム事業
- ・町民参加型の景観整備事業 ほか

### (2) ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方

冬期と夏期の利用が大きく異なるフロアであり、特に夏期の利用率向上が本施設の特徴づくりの要でもあることから、多用途利用を十分考慮したものとする。最大のセールスポイントは、スキー場の夏の風情や、周囲の風景、町の眺望であり、その環境を最大限活かした施設利用を検討する。

- ・冬期間はスキー場利用客の対応と考える。レストスペースは、スキー学習等団体利用を想定する。軽食コーナーでは主にスキー客が手軽に食べられるメニューを提供する。
- ・夏期間は、屋外体験プログラムや各種イベント等と連動した利用や団体客利用等を想定する。



## (3) 主な業務内容

業務名	内容
フロア管理（2階）	ホール、レストスペース、ショップ、軽食コーナーの管理等
スキー場管理	スキー場の維持管理
スキー場運営	リフト等運航、発券業務/ロッジフロアを統括する会議の開催/ 用具のレンタル
体験プログラム管理	屋内外体験施設の維持管理
体験プログラム運営	各種体験プログラムの運営/用具のレンタル
スポーツ活動支援	青少年への情報提供/各種団体との連携/合宿の誘致
その他	各種イベント等の企画運営





### 3. 全体管理機能

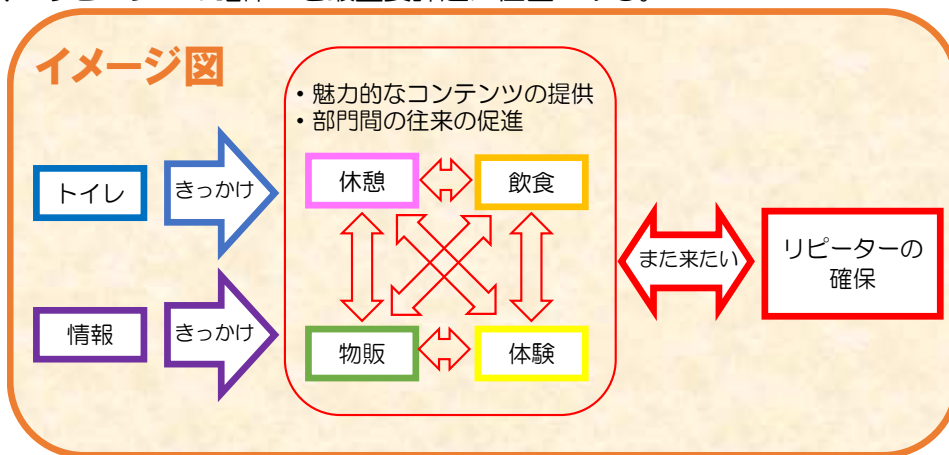
#### (1) 基本的な考え方

本施設の運営において、道の駅機能とロジ機能の融合は不可欠であり、両部門の強いつながりのもと、さまざまなコンテンツを提供することで、相乗効果を生み出すことが期待される。そのためには、施設全体の一体的な管理が必要であり、連絡調整・庶務事務・情報発信等の業務全般を集約させることで、円滑な施設運営が図られる。



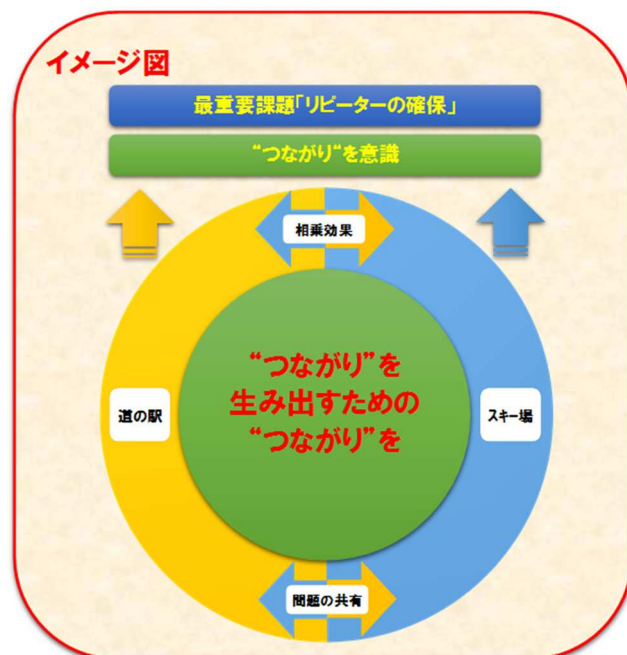
#### ①リピーターの確保

トイレ利用や各種情報を来場のきっかけとして、魅力的なコンテンツの提供及び各スペースの往来を促進する仕掛けにより、再び来場するきっかけを与えるとともに、誰もが安心して利用できる施設づくりをし、年齢を重ねても何度でも訪れたい道の駅となることを目指すために、“リピーターの確保”を最重要課題に位置づける。



#### ②一体的な管理

経営面や施設管理面でのさまざまなメリットから、道の駅とスキー場は「一元管理方式」とすることとし、“リピーターの確保”という共通の課題に向かって、相互に“つながり”を意識することが、施設としての“つながり”を生み出すことにつながると考え、協力・連携する上でのテーマとしながら、全体管理部門が連絡・調整することで、施設の健全かつ円滑な運営を目指す。





## (2) 情報発信の考え方

本施設の運営に係る情報発信については、パンフレットやポスター等の紙媒体による広報はもとより、近年の急速なインターネット環境の整備と情報通信機器の普及に伴い、ホームページやSNS※1による情報公開及びパソコンや携帯電話等※2 利用者に向けたWebサイトと連携したサービスの提供を想定している。

※1 ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service) の略で「人同士のつながり」を電子化するサービス。

※2 携帯電話、PHS、スマートフォン、タブレットなど

## (3) 主な業務内容

業務名	内容
総務	施設内の連絡調整／オホーツク管内市町村等との連携／ 関係機関との連絡調整／文書の収受、整理、照会、回答
庶務	委託等契約／給与／保険
経理	予算、決算／テナント料等管理
情報発信	ホームページの更新・管理／広報資料作成／ 各種媒体を利用したサービスの提供
その他	施設全体の維持管理、備品管理





## 第4章 管理運営の基本的な考え方

### 1. 管理運営の方法・主体について

#### (1) 町民の参画

町民に親しまれるとともに施設の各機能を有効に活用していくためには、利用者ニーズを的確に把握する絶え間ない努力と、その運営への町民参加者の参画が欠かせない。町民の施設運営への参画を実現し、実効性のあるものにするために重要なことは、町民参加者と施設管理者がコミュニケーションを図ることができるような仕組みの構築である。

本施設は、道の駅機能とロッジ機能を有する施設全体を一体的に管理することが前提であり、利用目的によりニーズが異なることを想定し、きめ細かなサービスの提供を目指して、町民参加者が積極的に参画できる機会を提供する。

#### (2) 管理運営主体についての考え方

本施設のような複合施設を有効に活用するためには、施設の「すべての機能を有機的に一体化」した管理運営が不可欠であり、そのことが『利用者ニーズに的確に応える』上で、最優先とされるべきコンセプトである。したがって、施設のすべての機能を融合し、一体化した管理運営をすることが不可欠である。

#### (3) 指定管理者制度の採用

指定管理者制度導入の趣旨は「多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の削減等を図ることを目的とする」ものである。

一体化した管理運営を実現する上では、独立した団体（法人）が管理運営を行う指定管理者制度を採用することにより、各部門（全体管理部門、道の駅部門、スキー場部門）の連携した運営が可能になり、施設全体の一体的な管理運営を実現することができる。

#### (4) 管理運営主体について

本施設を中心となる事業は、地域への人の呼び込みや経済波及が期待される道の駅事業と、遠軽町のスポーツ振興の一翼を担うスキー場事業の一体的展開であり、地域活性化への貢献や地域の教育・保健等効果も期待されるといった行政（施策）と密接に関連するため、経営的視点ばかりではなく、行政との連携が不可欠である。

本施設は、道の駅とロッジが一体となった利用者へのサービス提供が問われる「商業的性格の強い施設」であり、地域の産業（商業、農業、観光等）との連携も強く求められることから、経済部商工観光課が所管することが適当である。

予定している本施設の機能・役割を総合的に勘案し、供用開始に向けた各種準備の期間を想定した場合、施設建設中の早い段階で指定管理者を決定することが必要であると考える。

なお、本施設において2つの機能の融合や地域の多様な活動との連携といった施設の特異性から、マネジメント体制の構築が重要であり、現場を統括するいわゆる「道の駅長」またはそれに





相当する役職（※以下、駅長等という。）を置くこととする。

## 2. 施設管理の基本的事項

### （1）開館時間・開館日

開館時間・開館日については、指定管理者制度を活用し、効率性と柔軟性を確保することによって、幅広い利用者ニーズに的確に対応するよう、できる限り開館時間・開館日の拡大を図る。

本施設はこれまでの道の駅の枠を超えて、複数の機能を積極的に融合させることにより、さまざまな“つながり”を生み出すことが目的の施設であるため、施設の有する機能を一体的に管理することを前提としている。したがって、開館時間・開館日及び休館日についても全館としてのある程度の統一性が必要になる。しかしながら、施設の各機能もしくは各フロアでの開館時間等の利用者ニーズが若干異なることも想定されることや、高規格道路のICに隣接するという立地条件のよさ及び利用者の多様なライフスタイルを勘案し、より多くの利用者ニーズに対応する開館時間・開館日の設定を検討する。

具体的には休館日等を含め、既存スキー場との調整を図りつつも、開館時間・開館日等については下記を基準に、さらに休館日の縮小を目指し、利用者サービスの拡充を図ることを検討する。

#### 【各部門の開館時間、開館日】

	開館時間（営業時間）	開館日（営業日）
道の駅	午前9時～午後6時	年末年始等、指定管理者が指定する日を除き、年中無休とする。
ロッジ	（冬）午前9時～午後9時 （夏）午前9時～午後6時	冬期間は原則、指定管理者が指定する日を除き、無休とする。 夏期間は原則、道の駅に準ずる。
24時間 トイレ	24時間	年中無休とする。



(2) テナント等出店料金等

テナント等出店料金等については、「フードコート」「軽食コーナー」「屋外飲食店」「物産品販売店」「農産物直売店」に区分し、下記を基準に検討を進めており、その他の詳細（共益費、敷金ほか）についてもルールを整備し、別途、要項を策定した中で出店者等を募集することとする。

【各店舗の主な概要】

	フードコート	軽食コーナー	屋外飲食店	物産品販売店	農産物直売店
契約形態	賃貸借契約			委託販売契約	
営業期間	通年	(冬)主に11~3月 (テナント) (夏)主に4~10月 (直営)	通年		
区画数	4区画 <small>(業種によりこの限りでない)</small>	1区画 <small>(基本的な厨房設備あり)</small>	最大4区画 程度		
契約面積	A・B 約20㎡ C・D 約15㎡	約20㎡			
賃貸借料 (月額)	A・B 40,000円 C・D 30,000円	40,000円	1,000円 ×面積(㎡)		
手数料 (月額)	売上額の10% <small>(町外事業者のみ)</small>			売上額の20%	
直接費 (月額)	各自負担 <small>(電気・上下水道・ガス)</small>	各自負担 <small>(電気・上下水道) ※ガスなし</small>			

(3) 駐車場

駐車場については無料で、24時間利用可能とする。

道の駅前面のメイン駐車場には、小型車用92台、身障者用2台、大型車用9台、二輪車用10台分を確保する。主に、冬期利用を想定する仮設駐車場には、小型車用93台分を確保する。また、電気自動車等利用に対応した充電設備2台分を装備する。



### 3. 管理運営組織体制の考え方

#### (1) 管理運営体制等

道の駅機能及びロッジ機能が相互に融合するためには一体的管理が不可欠であり、その目的の達成を目指して以下の体系図により組織運営を行い、全体管理部門に施設全体を統括する駅長等を置き、道の駅、スキー場の各部門にリーダーを置いて統括する。

また、準備段階から町民や企業、団体、行政と連携して遠軽IC道の駅を考える会（※以下、考える会という。）を組織し、産業・食部会、体験部会、情報発信部会の3つの部会における、施設の建設から運営までを含めた検討内容を「幹事会」が取りまとめ、上部組織の検討協議会に確認・提案することとする。なお、各部会の役割は次のとおりとする。

#### ①産業・食部会

・食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくりを目指し、野菜・特産品などの販売に関する組織・ルール・方法、レストラン・フードコート・軽食などの食を提供する形式・運営・ルール、市街地飲食店との連携や住み分け、商品開発などを検討する組織で、参加者は町広報及び町ホームページで募集し、協議を行う。

#### ②体験部会

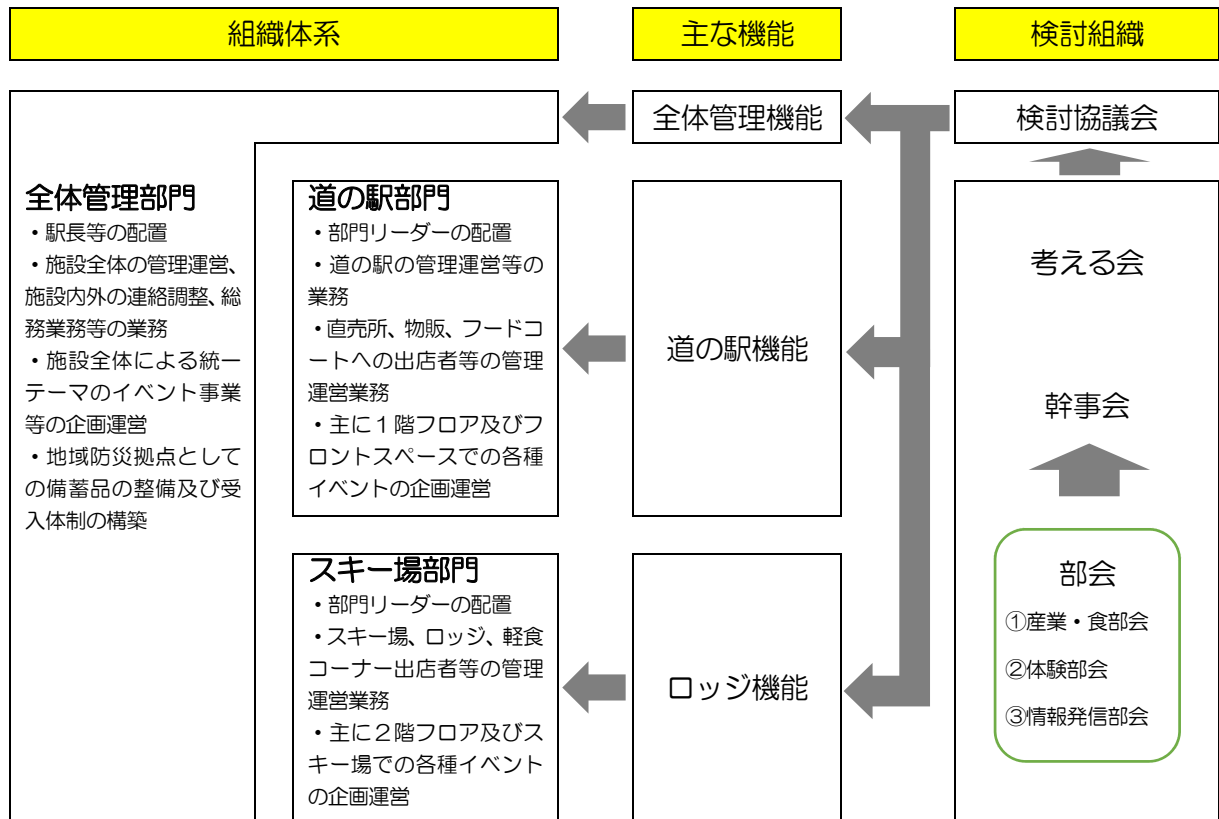
・スキー場の夏場利用を軸に、景観の整備や体験プログラム、各種イベント等の企画・立案について、各種関係機関と連携を図りながら検討を行う組織で、遠軽町在住の方から、事務局が提案する体験プログラムに対する意見及び参加者を募集し、協議を行う。

#### ③情報発信部会

・「遠軽・オホーツク」の観光情報を中心に、道路情報や防災情報など、事務局を中心に必要に応じて各組織や機関と連携を図り、情報提供のレベルと範囲、方法などの協議を行う。



## (2) 組織体系図



## (3) 駅長等候補者の任用

駅長等候補者の任用については、その役割、あり方、勤務形態を含めた位置づけ等を整理した中で、別途募集要項を策定し、公募することとする。

また、平成29年度中の任用を目指し、事務局及び検討協議会において選定を行うこととする。

## (4) 指定管理者の選定

道の駅の運営においては、「グレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」をコンセプトに、グレンデを有効活用した様々な体験や地域の食・文化の発信を行う中で、オホーツク圏の玄関口となる地域活性化の拠点として、スキー場を含めた道の駅における効果的なサービスの提供にあたり、専門的な知識や経験を活かした管理運営が求められることから、より効率的に準備を進めるためにも、指定管理者の選定については、公募によらないことを前提としながら、平成29年度中の内定及び早い段階での協定を目指すこととする。

## (5) 必要人員・収支想定

各部門（全体管理部門、道の駅部門、スキー場部門）における必要人員は、今後、考える会及び検討協議会において、具体的にどのような事業を展開していくかを協議する中で検討し、円滑な管理運営のために、職員等の効果的な配置を考慮しながら設定することとする。

また、収支想定についても同様に検討し、人件費、維持管理費、売上や各種料金等の収入について精査することとする。